

令和4年度 三次市立布野中学校区 プレゼンテーション資料



目次

1. 研究構想
2. 小中連携
3. 本年度の実践紹介
4. 成果と課題及びその対策について

連携地域を構成する学校

※令和5年2月1日現在

学校名	学級数	児童生徒数
三次市立布野小学校	6	56
三次市立布野中学校	4	18

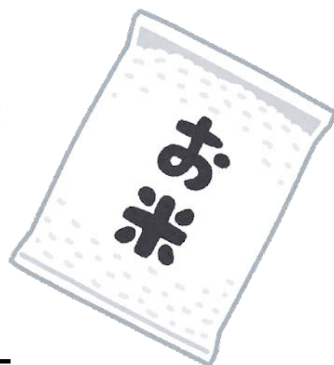
布野町といえば・・・



中村憲吉
(歌人)



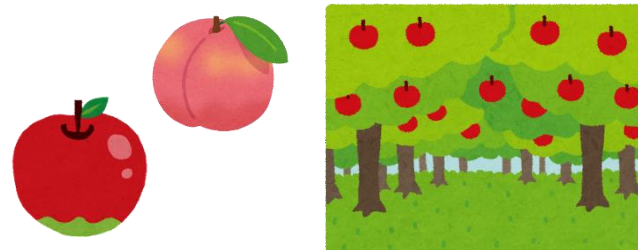
アスパラ
ガス



布野米・
横谷米



道の駅 ゆめランド布野



観光農園 フルーツランドふの



銀山街道

布野中学校区小中一貫教育目標

確かな学力をもち、夢や志に向けて主体的に活動するたくましい児童生徒の育成

布野中学校区が育成を目指す資質・能力

- ・生きて働く知識と技能
- ・コミュニケーション能力
- ・主体性
- ・自らへの自信

1 研究構想

2 小中連携

3 実践事例

4 成果と課題等

育成することを 目指す資質・能力	布野中学校区が 育成を目指す資質・能力	定義
知識及び技能 (知識・技能)	生きて働く知識と 技能	課題の解決に必要な知識及び技能を獲得し、課題に関わる概念を形成している。
思考力, 判断力, 表現力等 (思考・判断・表現)	コミュニケーション 能力	自分と他者の意見をつなげて考えたり, お互いの意見を調整したりすることができる。
学びに向かう力, 人間性等 (主体的に学習に取り組む 態度)	主体性	自分の良さや弱点を明らかにして, 何を伸ばし, 何を克服するのか判断し, 見通しを立てて計画的に取り組もうとしている。
学びに向かう力, 人間性等 (個人内評価)	自らへの自信	探究的な課題に協働的に取り組む中で, 自己の特性に気付き, 自分が社会にどのように関わっていきたいのかを考えようとしている。

研究テーマ

対話を通して主体的な学びを深める授業の在り方

—生活科・総合的な学習の時間における

評価の在り方に関する研究を通して—

研究仮説

PBLの考え方を取り入れた探究的な学習を充実させるとともに、ルーブリックを活用した評価の在り方を研究して指導にいかせば、児童・生徒は主体的な学びの力を深め自らの成長を実感し、児童・生徒の資質・能力を育成することができるであろう。

研究構想図

教育目標の達成

布野中学校区が育成を目指す資質・能力の育成

生きて働く知識と技能

課題の解決に必要な知識及び技能を獲得し、課題に関わる概念を形成している。

コミュニケーション能力

自分と他者の意見をつなげて考えたり、お互いの意見を調整したりすることができる。

主体性

自分の良さや弱点を明らかにして、何を伸ばし、何を克服するか判断し、見通しを立てて計画的に取り組もうとしている。

自らへの自信

探究的な課題に協働的に取り組む中で、自己の特性に気づき、自分が社会にどのように関わっていきたいのかを考えようとしている。

基礎的・基本的な知識及び技能の習得

指導方法の工夫

学習習慣の確立

児童・生徒の対話の質を高める

PBLの考え方を取り入れた探究的な授業の充実

ルーブリックを活用した評価の研究と評価結果の活用

教育目標が達成される

児童・生徒の資質・能力が育成される

PBLの考え方を取り入れた探究活動により、児童・生徒の主体的・対話的で深い学びを引きだす

目次

1. 研究構想
2. 小中連携
3. 本年度の実践紹介
4. 成果と課題及びその対策について

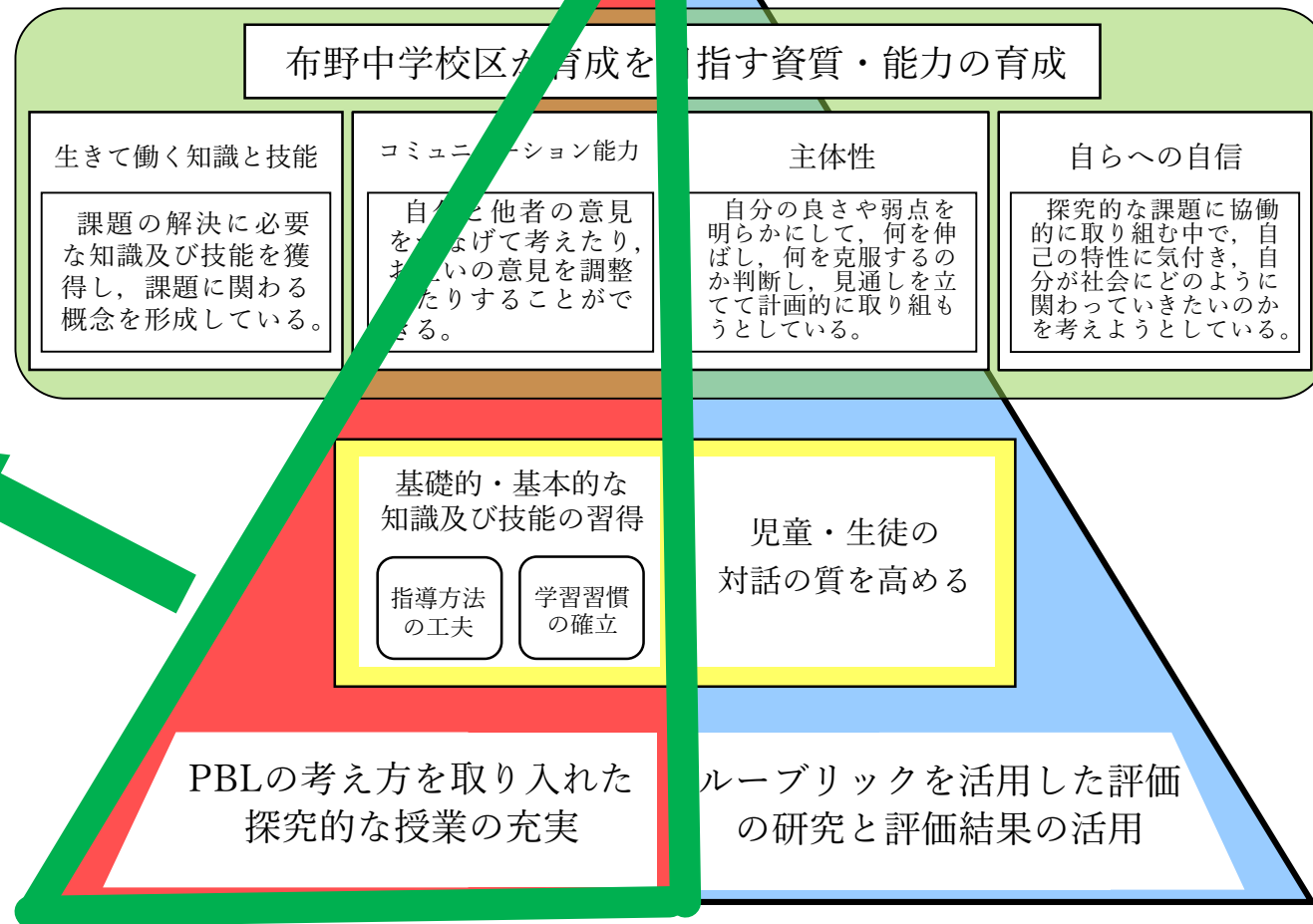
「PBLの考え方を取り入れた探究的な授業の充実」に向けた小中連携

布野中学校区探究活動モデル

段階的な資質・能力の向上計画

研究構想図

教育目標の達成



課題の提示・
課題の発見

phase① 現実の文脈に沿った課題と出会う。

教師は地域についての情報を提示して児童・生徒に興味をもたせる。児童・生徒はその情報について詳しく調べる中で、地域に根ざした探究課題を見出す。

phase② 成果の発表について事前に詳しく示される。

成果(成果物)の発表方法を定める。これは仮の発表方法であり、必要性や児童・生徒の想いによって修正しても構わない。

確認すべき内容

- ・いつ発表するのか。(日時)
- ・誰に発表するのか。(相手)
- ・どこで発表するのか。(場所)
- ・どうやって発表するのか。(方法)
- ・発表当日までにどれだけの時間が用意されているのか。(準備に使える授業時間)

phase③ 成果の発表に向けて、自分たちで学習を調整しながら
粘り強く取り組んでいく。

示された授業時数をやりくりしつつ、成果の発表日に向けて、学習を調整しながら粘り強く探究していく。教師は、ファシリテーターとなる。

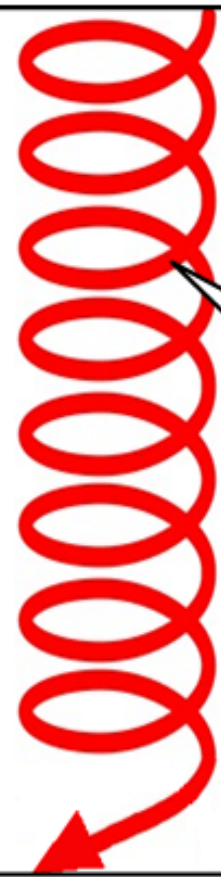
教師の役割

- ・活動が行き詰まり、児童・生徒だけで進めそうにないと判断できるとき、視点の焦点化につながる声掛けをしたり、これまで集めた情報を確認するように促したり、考える上で役立つヒントを提示したりする。
 - ・児童・生徒が行っている活動が、探究として小さくまとまりそうになっているとき、探究メンバーの一人という立場からスケールの大きな提案や活動を発展させる提案をする。
 - ・児童・生徒が行っている活動の方向が探究の目的からずれているときに、探究しているそもそもの目的を再確認するように促す。
- ※児童・生徒が行っている活動が、教師が当初想定していた流れとずれてきたとき、その活動が資質・能力の育成に有効と判断できる内容ならば、その活動を継続させる。

phase④ 成果の発表と探究活動全体を俯瞰した振り返りを行う。

これまでの成果を発表する。児童・生徒は、発表後に探究活動全体を俯瞰して自分の資質・能力の高まりを確認したり、次の探究に向けた新たな問いを発見したりする。

探究の過程を何度も繰り返す

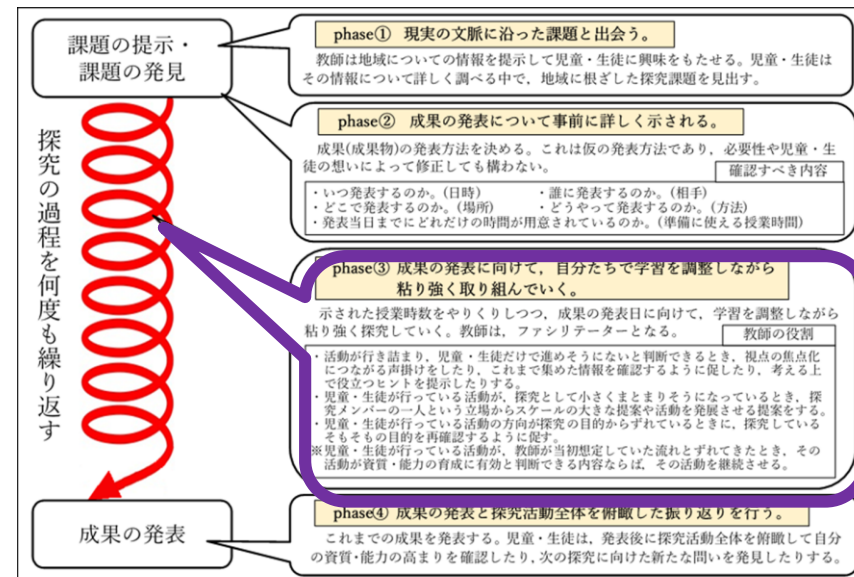


成果の発表

布野中学校区
探究活動モデル

phase③についての基本的な探究の手法

- (1) 地域(布野)のためにできることを考える。
- (2) (1)で考えたことは、地域のニーズに合ったものであるか調べる。
- (3) 調べた結果をもとに単元を貫く問いを設定する。
- (4) とりあえずやってみる(プロトタイプを作る)。
- (5) (4)を発表し、意見や感想を集める。
- (6) 集まった意見や感想をもとに作ったものを修正する。修正後に発表し意見や感想を集める。
- (7) (6)を完成したと思えるまでひたすらに繰り返す。
- (8) 成果発表の場面で、自分たちが最も効果的と考える方法で成果を発表する。
- (9) 成果発表後の反響などをふまえて、単元を貫く問いに立ち返り、探究活動全体を振り返る。
- (10) 今年度の経験を受けて、次年度の探究活動をどのようにしていきたいのかを考え、問いを立て方向性を決めていく。



9年間を初期・前期・中期・後期に分け，能力を段階的に育成

布野中学校区 オリジナルカリキュラム ～布野中学校区が育成を目指す資質・能力の向上を目指して～

令和4年5月16日(月)現在 Ver.5

		初期		前期		中期		後期		
		小学1年生	小学2年生	小学3年生	小学4年生	小学5年生	小学6年生	中学1年生	中学2年生	
布野中学校区が目指す資質・能力を身につけるための探究活動		ほつが やってま E	ひこくまごわたしのおもちゃ	布野のアスバダガス～アスバダガス体験しよう～	布野と中村定吉～異江川と交流しよう～	布野未来のゆいしとのひみつをたたく人の役にたこう	福山伝説遊園地探検	グランドタウン布野	西濃林体験学習	地域・社会のために役立つことを実践しよう
研究内容	知識の活用	本朝に体験したり、本などで調べたりしながら問題解決のために必要な知識及び技術を獲得している。	本朝に体験したり、本などで調べたりしながら問題解決のために必要な知識及び技術を獲得している。	体験や調べ学習を通して得られた情報や知識を整理したり、整理知識と結び付けたりしながら、問題の解決に活用できる知識及び技術を獲得している。	体験や調べ学習を通して得られた情報や知識を整理したり、整理知識と結び付けたりしながら、地域や自らの生活に関わる問題の解決に活用できる知識及び技術を獲得している。	問題や解決するために必要な知識・技術を、新たな見出しと結び付けながら自らの生活に関わる問題の解決に活用できる。	問題や解決するために必要な知識・技術を、新たな見出しと結び付けながら自らの生活に関わる問題の解決に活用できる。	問題や解決するために必要な知識・技術を、新たな見出しと結び付けながら自らの生活に関わる問題の解決に活用できる。	問題や解決するために必要な知識・技術を、新たな見出しと結び付けながら自らの生活に関わる問題の解決に活用できる。	
	主体的な学習	主体的な学習の過程を体験した単元や単元の中で、体験を通して主体的に学習している。	主体的な学習の過程を体験した単元や単元の中で、体験を通して主体的に学習している。	主体的な学習の過程を体験した単元や単元の中で、体験を通して主体的に学習している。	主体的な学習の過程を体験した単元や単元の中で、体験を通して主体的に学習している。	主体的な学習の過程を体験した単元や単元の中で、体験を通して主体的に学習している。	主体的な学習の過程を体験した単元や単元の中で、体験を通して主体的に学習している。	主体的な学習の過程を体験した単元や単元の中で、体験を通して主体的に学習している。	主体的な学習の過程を体験した単元や単元の中で、体験を通して主体的に学習している。	
	対話	お互いの考えを聞きながら、相手の考えを受けて感想を述べている。	お互いの考えを聞きながら、相手の考えを受けて感想を述べている。	目的や進め方を整理しながら、役割を分担して話し合い、お互いの意見の相違点を整理して考えをまとめることができる。	お互いの立場や意見を明確にして建設的に話し合い、発言や結び付けたりそこから考えを言及したりしてまとめることができる。	お互いの立場や意見を明確にして建設的に話し合い、発言や結び付けたりそこから考えを言及したりしてまとめることができる。	お互いの立場や意見を明確にして建設的に話し合い、発言や結び付けたりそこから考えを言及したりしてまとめることができる。	お互いの立場や意見を明確にして建設的に話し合い、発言や結び付けたりそこから考えを言及したりしてまとめることができる。	お互いの立場や意見を明確にして建設的に話し合い、発言や結び付けたりそこから考えを言及したりしてまとめることができる。	
	問題解決	課題や問題に対して、自分の考えや意見を述べながら、課題や問題の解決に取り組んでいる。	課題や問題に対して、自分の考えや意見を述べながら、課題や問題の解決に取り組んでいる。	役割を決めて話し合う場面や行の場、「比べる・まとめる・つなげる」の場面などに、意見を対等に話し合うことができる。	役割を決めて話し合う場面や行の場、「比べる・まとめる・つなげる」の場面などに、意見を対等に話し合うことができる。	役割を決めて話し合う場面や行の場、「比べる・まとめる・つなげる」の場面などに、意見を対等に話し合うことができる。	役割を決めて話し合う場面や行の場、「比べる・まとめる・つなげる」の場面などに、意見を対等に話し合うことができる。	役割を決めて話し合う場面や行の場、「比べる・まとめる・つなげる」の場面などに、意見を対等に話し合うことができる。	役割を決めて話し合う場面や行の場、「比べる・まとめる・つなげる」の場面などに、意見を対等に話し合うことができる。	
	振り返り	自分の学びや気づき、どういった成果があったか振り返ることができている。	自分の学びや気づき、どういった成果があったか振り返ることができている。	目的に対して、主体的な学習の方法を体験しながら、主体的・協力的に学習に取り組むことができる。	目的を明確にして、主体的な学習に取り組むことができる。	目的を明確にして、主体的な学習に取り組むことができる。	目的を明確にして、主体的な学習に取り組むことができる。	目的を明確にして、主体的な学習に取り組むことができる。	目的を明確にして、主体的な学習に取り組むことができる。	
	学びの楽しさ	単元を通して、自分が得意になったことや学んだことなど振り返ることができている。	単元を通して、自分が得意になったことや学んだことなど振り返ることができている。	単元を通して、自分が得意になったことや学んだことなど振り返ることができている。	単元を通して、自分が得意になったことや学んだことなど振り返ることができている。	単元を通して、自分が得意になったことや学んだことなど振り返ることができている。	単元を通して、自分が得意になったことや学んだことなど振り返ることができている。	単元を通して、自分が得意になったことや学んだことなど振り返ることができている。	単元を通して、自分が得意になったことや学んだことなど振り返ることができている。	

今年度、各学年が開発・実践する予定の単元

単元を通して育成したい資質・能力の具体

布野中学校区 オリジナルカリキュラム

布野中学校校区 発達段階毎の探究する姿

令和4年9月22日(木)現在

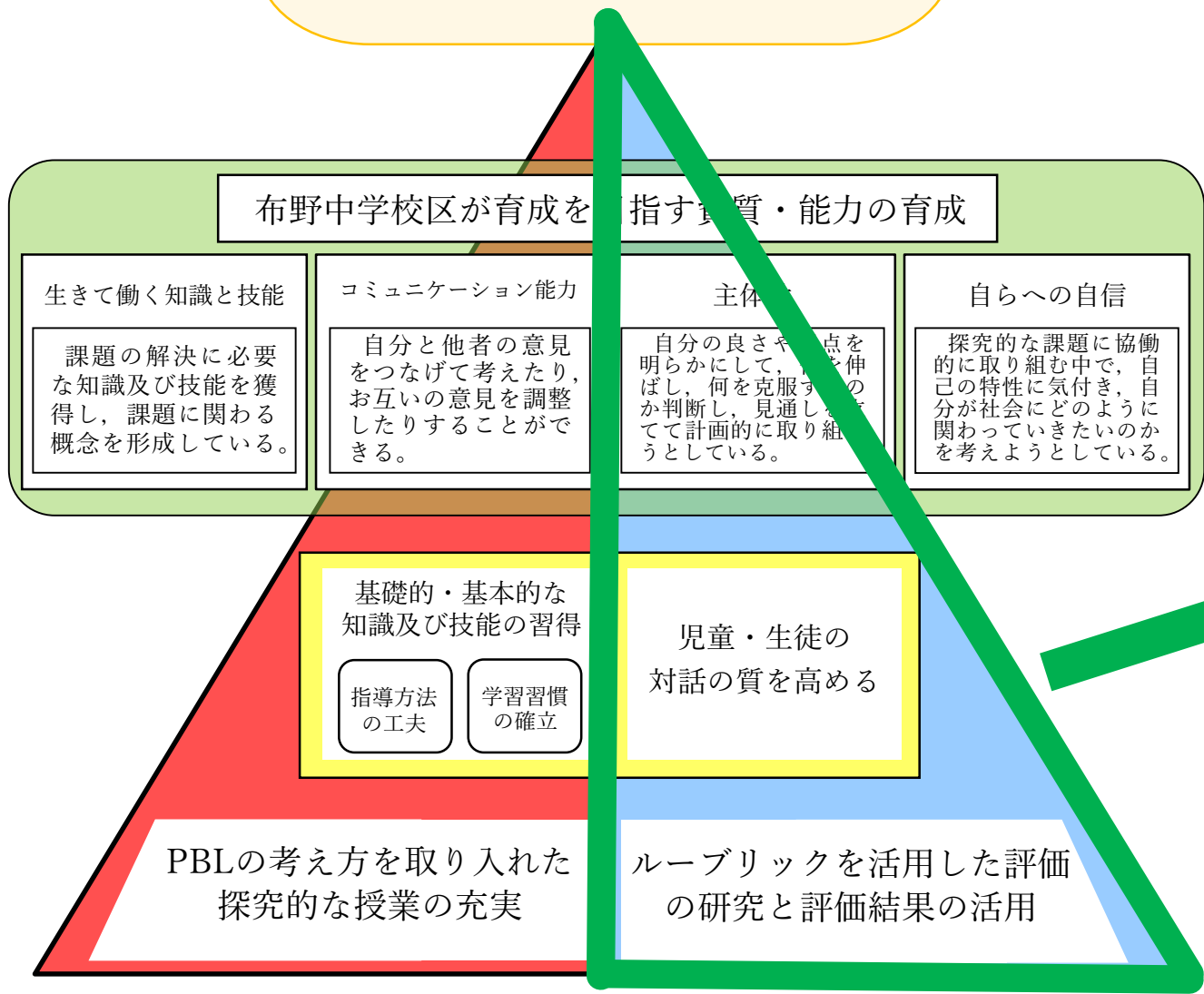
Ver.1

	初期		前期		中期		後期	
	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2 中3
この期間について	前期以降の総合的な学習の時間での活動に向けて、探究活動を体験する期間。教師が主導となるが、児童の想いを大切に、場面毎に、自分たちなりの工夫を成果物に込めていながら探究を進めていく。		探究活動を行っていく期間。課題の提示や活動内容、成果物の発表方法等、まだまだ教師が主導する面は強いが、児童の想いや考えを大切に、教師と児童が対話しながら方針を決めて探究を進めていく。		学習者主導の探究活動を目指す期間。徐々に児童・生徒が主体となり探究活動を行っていく。		学習者主導の探究活動を行う期間。生徒が主体となり探究活動を行っていく。	
step① 課題設定	教師が、育成したい資質・能力や児童の興味関心、探究する価値のある教材といった要素から総合的に判断して単元のテーマを設定する。児童が主体的に学習に取り組むようになるように、導入(テーマとの出会わせ方と魅力的なゴール設定)を工夫する。		教師が、育成したい資質・能力や児童の興味関心、探究する価値のある地域教材、他者(地域の人や専門家等)とどのような関わりをもつことができるかといった要素から総合的に判断して単元のテーマを設定する。児童が主体的に学習に取り組むようになるように、導入(テーマとの出会わせ方と魅力的なゴール設定)を工夫する。		児童・生徒が布野の特色や現状について調べて自分たちなりの布野のより良い姿をイメージし、イメージを実現するために、自分たちでできることを考え、探究テーマや目標を設定する。予め教師は探究テーマを想定しておくが、児童・生徒の願いの実現に、より適した探究テーマが意見として出てくれば、その探究テーマについて検討する。		生徒同士での対話を重視しながら、布野中学校区探究活動モデルを生徒たちが主体的に活用して探究していく。教師は場面に応じて、協働探究者或いはファシリテーターとなり生徒の探究を支援していく。	
step② 成果物の発表	教師が魅力的な発表の場面を設定する。児童に示すときには、特に、誰が発表の場に参加するのか。その相手に、成果物の発表を通じてどんな気持ちになって欲しいのかという具体的な目的意識を全ての児童で共有させる。		教師が魅力的な発表の場面を設定する。児童に示すときには、特に発表する目的と当日までの授業時数を意識させ、自分たちなりの見通しを立てて探究活動を行っていくようにする。		児童・生徒が目標の達成のために、誰にどのような発表を行うのが最も効果的かを考え、発表方法を決定していく。予め教師は、発表の場面を想定しておくが、児童・生徒の願いの実現に、より効果的な発表の場面が意見として出てくれば、その発表方法について検討する。		生徒が目標の達成のために、誰にどのような発表を行うのが最も効果的かを考え、発表方法を決定していく。発表会場図の作成・タイムスケジュールの設定・司会原稿・関係者へのもてなし等についても企画していく。教師は主にファシリテーターとなり生徒の探究を支援していく。	
step③ 探究手法	教師が選択肢を提示し、児童は、選択肢の中から、最も自分が望むものを選択して実行していく。中間発表の場面を何回か設定し、学習調整を促す。		教師が選択肢を提示し、児童は、選択肢の中から、目的の達成に最も適している方法はどれかを考えて、選択した方法を実行していく。中間発表の場面を何回か設定し、学習調整を促す。		児童・生徒が発表までの期間を考え、見通しを立てて探究活動を行っていく。必要に応じて、材料や準備時間などを教師に相談しながら確保していく。		生徒が発表までの期間を考え、見通しを立てて探究活動を行っていく。必要に応じて、材料や準備時間などを工夫してやりくりし、計画を遂行していく。	
他者との 関わり	児童に成果物を作っていく段階で必要性を感じさせ、詳しい人に教えてもらいたいという想いを持たせる。詳しい人に教えてもらう活動を設定し、他者と交流することの価値を体験させる。		児童に次のようなプロセスで地域の人と関わることで布野の特色への概念的な理解を深めさせる。①探究のテーマとなる布野の特産物や文化を知る。②地域の人と関わっていく中で、その特産物や文化について、地域の人々が深い愛情をもっていることを感じとる。③その特産物や文化が布野で暮らす人々の誇りとなっていることを理解する。		児童・生徒が成果物の作成のために、より精度の高い情報を得るべく専門家に依頼してアドバイスを得ようとする。 児童・生徒が、自分たちの考えている方法より適切なものにするために、地域の人々の想いを聞いたり、成果物を発表するターゲット層となる人々にアンケートやインタビューに協力してもらったりしようとする。		生徒が成果物の作成のために、必要となる具体的な情報を整理し専門家にインタビューを行おうとする。	
探究活動 終了後の 児童・ 生徒の姿	探究活動全体を振り返ることで、自分の成長(布野中学校校区が育成を目指す資質・能力の高まり)を実感している。							
	成果物を誰かに発表することで、自分の行いが他者の喜びに繋がっていることを実感し、次の探究活動への意欲を高めている。		成果物を目標に合わせた相手に発表することで、自分の行いが地域に貢献していることを実感し、次の探究活動への意欲を高めている。		探究を通じて、自分なりの理想的な布野町の姿を具体的にイメージしている。		探究を通じて身に付けたことを日常で活かそうとしている。また、自分は社会とどのように関わっていくべきかを考えようとしている。	

布野中学校校区
発達段階毎の
探究する姿

研究構想図

教育目標の達成



「ルーブリックを活用した評価の研究と評価結果の活用」に向けた小中連携

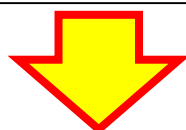
布野中学校区ルーブリックの基本形

[ルーブリック]

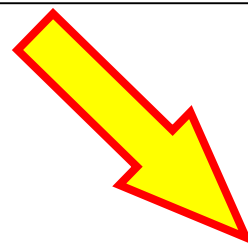
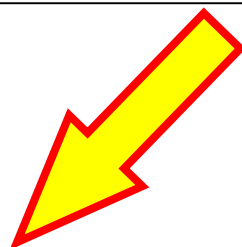
	A	B	C
生きて働く知識と技能	課題の解決に必要な知識及び技能を獲得し、実社会や実生活に活用できる概念を形成している。	課題の解決に必要な知識及び技能を獲得し、課題に関わる概念を形成している。	課題解決に必要な知識及び技能を獲得している。
コミュニケーション能力	話し合いを通して、考えを発展・進化させ、合意点を見出すことができる。	話し合いを通して、自分の考えを見直したり、新たな視点をもったりすることができる。	他者の考えを聞いて、自分の考えに活かすことができる。
主体性	自分に取り組むべきことを明らかにし、必要に応じて活動計画を見直して、修正を加えながら取り組みを進めようとしている。	自分に取り組むべきことを明らかにし、見通しを持って取り組みを進めようとしている。	自分に与えられた指示を果たそうとしている。
自らへの自信	<p>自らへの自信は、「学びに向かう力、人間性等」の「観点別学習状況の評価や評定にはなじまず、個人内評価を通じて見取る部分」に対応した資質・能力であるため、ルーブリック評価による一律な評価は行わず、子どもたち一人一人のよい点や可能性、進歩の状況を見取って、それを価値付けていく。</p>		

布野中学校区
ルーブリック
の基本形

単元のルーブリックを作成する。



評価(主に形成的評価)する。



教師の指導改善に活用

児童生徒の学習改善に活用

探究的な学習についての 小中合同研修



令和4年度
夏季研修会

学習評価についての 小中合同研修



令和4年度 学校(団体)
サポート研修

目次

1. 研究構想
2. 小中連携
3. 本年度の実践紹介
4. 成果と課題及びその対策について

布野小学校 2 年生 実践紹介

単元名：おもちゃパーティー
大作せん！



単元計画

課題の提示・
課題の発見

探究の過程を

phase① 現実の文脈に沿った課題と出会う。

【布野保育所の先生からの依頼】

年長さんと一緒に遊んで欲しい。

→ 児童の願い：年長さんが楽しんでくれるおもちゃパーティーをひらこう！

phase② 成果の発表について事前に詳しく知る。

(日時) 令和4年12月13日 10:30~11:30

(相手) 布野保育所の年長さん

(場所) 三次市立布野保育所

(方法) 保育所にサプライズで訪問し、おもちゃパーティーを開き、年長さんに楽しんでもらう。

(準備に使える授業時間) 15時間

何度も繰り返す



成果の発表

phase③ 成果の発表に向けて、自分たちで学習を調整しながら粘り強く取り組んでいく。

- ① いつ・どこで・誰に・何を行うのか、ゴールを設定する。
- ② 年長さんの情報（人数・男女比率・好きなこと等）を、保育所の先生に聞いて集める。
- ③ どんなおもちゃにすれば、年長さんが喜んでくれるか、考えながらおもちゃ作りをする。
- ④ 事前に1年生に遊んでもらい、改善点を見つけ、修正する。
- ⑤ 相手を意識し、他にどんな準備が必要か考え準備する。
具体的な活動方法は自分たちで考える！

phase④ 成果の発表と探究活動全体を俯瞰した振り返りを行う。

- ・ 保育所にサプライズで訪問し、年長さんにおもちゃパーティーを楽しんでもらう。
- ・ 活動を振り返りどんな力がついたか考えることを通して、自分の成長を実感させると共に、更なる課題を設定させる。

資質・能力の評価規準

育成を目指す 資質・能力	布野中学校区が育成を 目指す資質・能力	評価規準
知識及び技能	生きて働く知識と技能	年長さんが楽しんでくれることを想像しながら、おもちゃを作ったりルールを考えたりしている。
思考力、判断力、表現力等	コミュニケーション能力	年長さんの実態や、発達段階を考慮し、年長さんが楽しんでもらえるおもちゃを考え、おもちゃについて説明している。
学びに向かう力、人間性等	主体性	年長さんに楽しんでもらうことを意識しながら、おもちゃ作りやパーティーの準備を行おうとしている。
	自らへの自信	自らへの自信は、「学びに向かう力、人間性等」の「観点別学習状況の評価や評定にはなじまず、個人内評価を通じて見取る部分」に対応した資質・能力であるため、一律の評価規準を設けず、子どもたち一人一人のよい点や可能性、進歩の状況を見取って、それを価値付けていく。

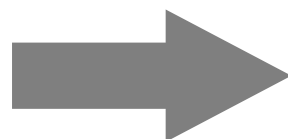
資質・能力を評価するための ルーブリック

	A	B	C
生きて働く知識と技能	年長さんが楽しんでくれることを想像しながら、おもちゃを作ったりルールを考えたりすると、自分も相手も楽しいことに気付いている。	年長さんが楽しんでくれることを想像しながら、おもちゃを作ったりルールを考えたりしている。	自分でおもちゃを作っている。
コミュニケーション能力	年長さんの実態や、発達段階を考慮し、年長さんが楽しんでもらえるおもちゃを考え、その根拠をもって自分の意見と比較・共感し、伝え合うことができている。	年長さんの実態や、発達段階を考慮し、年長さんが楽しんでもらえるおもちゃを考え、おもちゃについて説明している。	作りたいおもちゃを自分なりに考えている。
主体性	年長さんに楽しんでもらうことを意識しながら、進んでおもちゃ作りやルールを工夫し、年長さんと触れ合い、交流している。	年長さんに楽しんでもらうことを意識しながら、おもちゃ作りやルールを考えている。	自分に与えられた指示を果たそうとしている。
自らへの自信	自らへの自信は、「学びに向かう力、人間性等」の「観点別学習状況の評価や評定にはなじまず、個人内評価を通じて見取る部分」に対応した資質・能力であるため、ルーブリック評価による一律な評価は行わず、子どもたち一人一人のよい点や可能性、進歩の状況を見取って、それを価値付けていく。		

～布野保育所の先生からの依頼を受けて～

『年長さんが楽しくなってくれるように工夫して、年長さん・2年生スペシャルパーティーを成功させよう！』

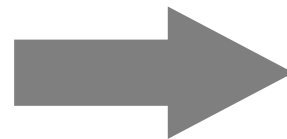
①年長さんが楽しんでくれるようなおもちゃを作る。



②国語科「馬のおもちゃの作り方」を学び、おもちゃの遊び方の説明を考える。



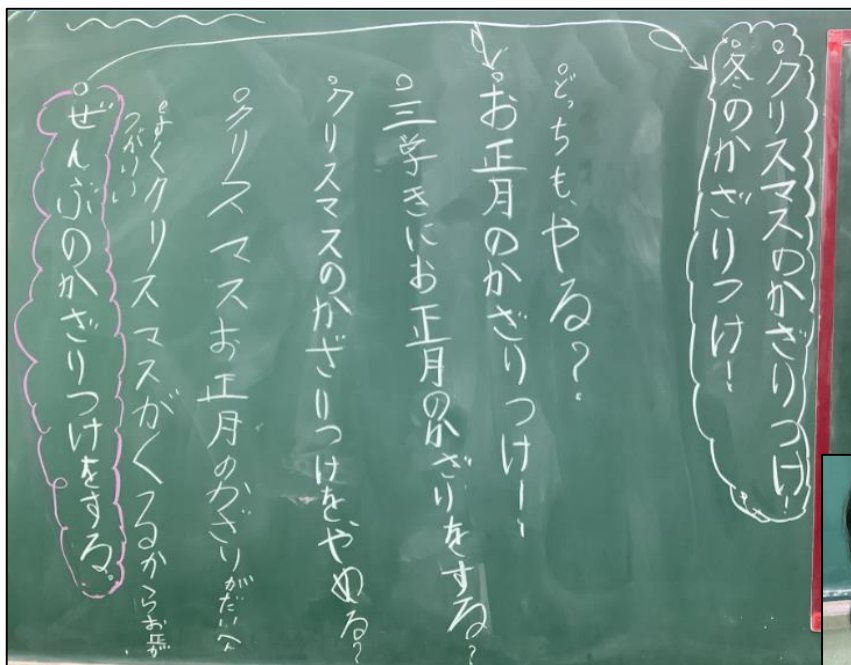
③年長さんの代わりに、1年生に遊んでもらい、おもちゃの動き方や説明の分かりやすさを試す。



④おもちゃや説明を改善する。



⑤ どんなパーティーにすればよいか考え、準備する。



⑥年長さんにサプライズで保育所に訪問し、年長さん2年生スペシャルパーティーを開催する。



⑦一連の活動を振り返り、どんな力がついたか考えることを通して、自分の成長を感じ、更なる課題を設定する。（作文）



布野中学校2年生 実践紹介

単元名：学んだことを発信しよう

～プロモーション大作戦

アスパラ生クリーム大福発信中～

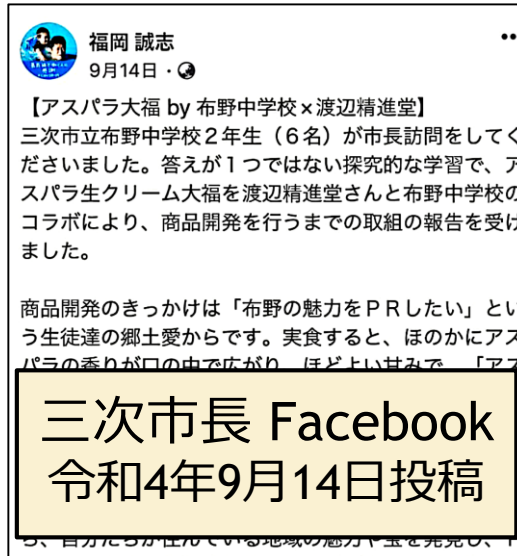


令和4年11月22日

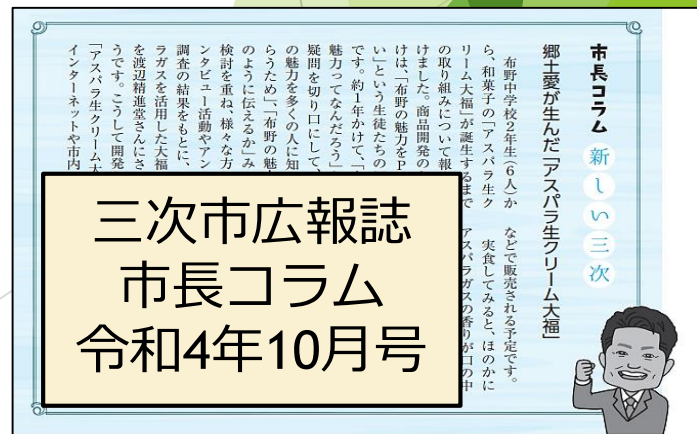
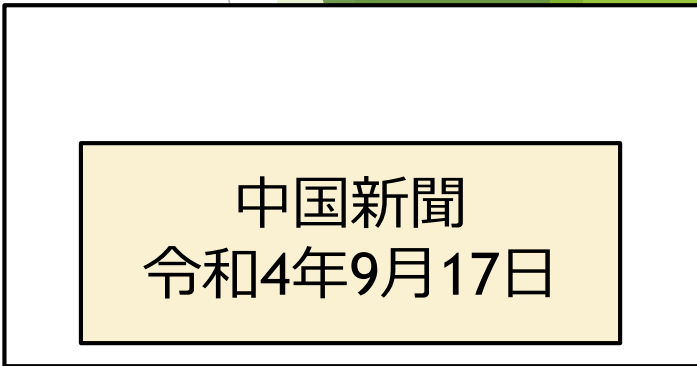
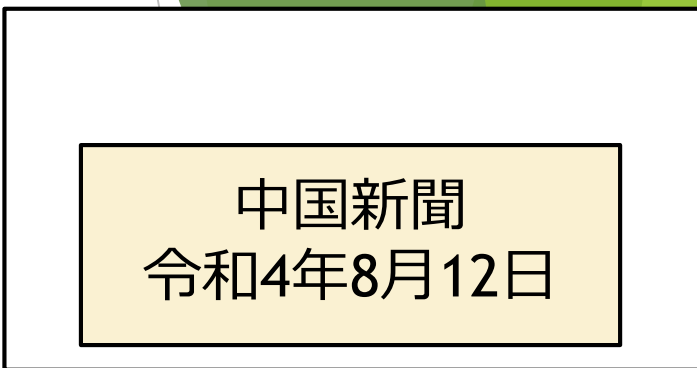
ひろしま夢ぷらざで販売プロモーション実施



布野町広報誌
令和4年9月号



三次市長 Facebook
令和4年9月14日投稿



三次市広報誌
市長コラム
令和4年10月号

前年までとの繋がり

小学校3年時 アスパラガスとの出会い

地域の人に教わりながらアスパラガスを栽培し、布野の特産品であることを学習する。



布野のアスパラガスは有名なんだよ。

(単元終了後の振り返り)
・こんなに大きく育つなんてビックリした。
・アスパラガスって美味しい。

中学校1年時 特産品を使ったスイーツの開発

得られた情報を分析し、スイーツを1つに絞ることに決定。自分たちで評価項目を決めてレシピを採点。



料亭で、意外性は特に重要って教わったね。

アスパラは意外性があるっていいじゃない。

話し合いの末、

アスパラ大福に決定!

中学校2年時 プロモーション活動

【生徒が見つけた問い(単元を貫く問い)】

どのようなプロモーション活動をすれば、多くの人にアスパラ生クリーム大福を購入して、布野のことを知ってもらえるのだろうか。

パッケージデザインの作成



コンペ優勝
デザイン



提出した
デザイン

しおり・チラシ・HP作成



商品に同封するしおり

2022年7月21日

アスパラ生クリーム大福販売開始!



布野ふるさとまつりの実行委員会より販売依頼が来る。

単元を貫く問いを生かした振り返り

プロモーション活動全体を振り返る。



プロモーション活動で布野を知ってもらえたかな?

沢山売れたけど、布野を知ってもらえていない。

広告代理店の人との交流

生徒から販売プロモーションについて「プロの人に話を聞きたい」という声上がり、広告代理店の方に講師を依頼。貰ったアドバイスを参考に販売プロモーションを修正する。



ひろしま夢ぶらざで販売

修正した販売プロモーションを行う。用意した60個が2時間で完売。



地域の祭りで販売

布野ふるさとまつりで、販売プロモーション。用意した100個と、急遽、追加した20個が完売。



【生徒が見つけた問い】

アスパラ生クリーム大福を購入した人に、布野のことを知ってもらうにはどうすればよいだろうか。

→ この問いから次の探究へ!

小学校 3 年時

布野の特産品であるアスパラガスを，地域の方と栽培する。



中学校 1 年時

特産品を使ったスイーツを開発。有限会社渡辺精進堂との共同開発で商品化が決定。



単元計画

課題の提示・
課題の発見

探究の過程を

phase① 現実の文脈に沿った課題と出会う。

【有限会社渡辺精進堂からの依頼】

パッケージデザインを考えて欲しい。

→どのようなプロモーション活動をすれば、多くの人にアスパラ生クリーム大福を購入して、布野のことを知ってもらえるのだろうか。

phase② 成果の発表について事前に詳しく示される。

(日時) アスパラガスの収穫シーズン前までに欲しいとのこと。

(相手・場所・方法) 有限会社渡辺精進堂の社長へ提出

(条件) 布野中学校と渡辺精進堂のコラボ商品であると分かるデザインであること。

(準備に使える授業時間) 5時間

何度も繰り返す

phase③ 成果の発表に向けて、自分たちで学習を調整しながら粘り強く取り組んでいく。

- ① 布野のことを知ってもらうためには、どんなパッケージにすればいいのかを考える。
- ② 各自でパッケージデザインのサンプルを集めてから報告会を行い、調べた情報を共有する。
- ③ 各自でパッケージデザインを考える。
- ④ 各自が考えたデザインでコンペを行い、ベースデザインを決定する。
- ⑤ 対話しながらパッケージデザインを完成させる。

phase④ 成果の発表と探究活動全体を俯瞰した振り返りを行う。

- ・ 提出したデザインを基に、渡辺精進堂と打ち合わせを進め、パッケージデザインを完成させていく。
- ・ パッケージデザインの作成を通して、自分たち(中学生)が開発や販売に関わることが、商品のアピールになることに気付かせ、更に販売に貢献したいという意欲をもたせる。

成果の発表

資質・能力の評価規準

育成を目指す 資質・能力	布野中学校区が育成を 目指す資質・能力	評価規準
知識及び技能	生きて働く知識と技能	プロモーション活動に向けて必要な情報を得て、収集した情報を整理・分析して目的につなげる技能を身に付けることで、地域の魅力をプロモーションするための概念を形成している。
思考力、判断力、表現力等	コミュニケーション能力	プロモーション活動に向けて、人から聞き取った情報などをもとに話し合い、自分たちの考えを見直したり、新たな視点をもったりすることができている。
学びに向かう力、人間性等	主体性	プロモーション活動の成功に向けて、学習すべき内容を自ら考え行動しようとしている。
	自らへの自信	自らへの自信は、「学びに向かう力、人間性等」の「観点別学習状況の評価や評定にはなじまず、個人内評価を通じて見取る部分」に対応した資質・能力であるため、一律の評価規準を設けず、子どもたち一人一人のよい点や可能性、進歩の状況を見取って、それを価値付けていく。

資質・能力を評価するための ルーブリック

	A	B	C
生きて働く知識と技能	プロモーション活動をするために必要な知識及び技能を獲得し、実生活や実社会に関わる概念を形成している。	プロモーション活動をするために必要な知識及び技能を獲得し、地域の名産品をプロモーションするために必要な概念を形成している。	プロモーション活動をするために必要な知識及び技能を獲得している。
コミュニケーション能力	話し合いを通してプロモーション活動についての考えを発展・深化させ、合意点を見出すことができている。	話し合いを通してプロモーション活動についての自分たちの考えを見直したり、新たな視点をもったりすることができている。	他者の考えを聞いて、プロモーション活動についての自分の考えに活かすことができている。
主体性	プロモーション活動をするために、自分が取り組むべきことを明らかにし、必要に応じて活動計画を見直し、修正を加えながら取り組みを進めようとしている。	プロモーション活動をするために、自分たちが取り組むべきことを明らかにし、見通しを立てて取り組みを進めようとしている。	プロモーション活動をするために、自分たちに与えられた指示を果たそうとしている。
自らへの自信	自らへの自信は、「学びに向かう力、人間性等」の「観点別学習状況の評価や評定にはなじまず、個人内評価を通じて見取る部分」に対応した資質・能力であるため、ルーブリック評価による一律な評価は行わず、子どもたち一人一人のよい点や可能性、進歩の状況を見取って、それを価値付けていく。		

2022年3月 アスパラ生クリーム大福 商品化決定

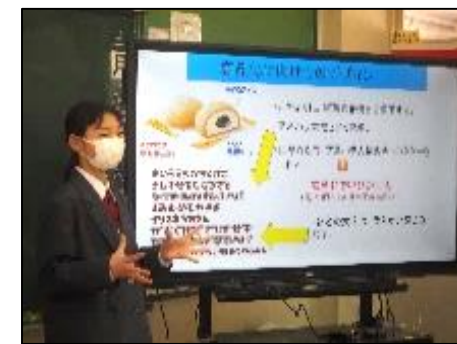
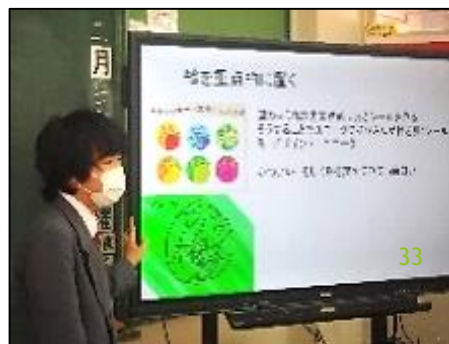
【有限会社渡辺精進堂からの依頼】 パッケージデザインを考えて欲しい。

- 条件①：布野中学校と渡辺精進堂のコラボ商品であると分かるデザインであること。
条件②：アスパラガスの収穫時期の前に提出して欲しい。

【生徒が見つけた問い(単元を貫く問い)】
どのようなプロモーション活動をすれば、
多くの人にアスパラ生クリーム大福を購入
して、布野のことを知ってもらえるのだら
うか。

デザインについて調査

各自でデザインについて調べる。
その後、各自が得た情報を共有。



パッケージデザインの決定

各自が春休み中に考えたデザインでコンペを行い、ベースデザインが決定。他の生徒たちのデザインから良い点を取り入れデザインを改善して提出。布野中学校・有限会社渡辺精進堂・プロのデザイナーで相談しパッケージデザインが完成。

(コンペ優勝作品への生徒コメント)

- ・ アスパラらしい色使いでよい。
- ・ 日本語も英語も表記してある。
- ・ オシャレでチャームング。
- ・ 中学校と渡辺精進堂とのコラボであることが分かりやすい。



コンペ優勝
デザイン



提出した
デザイン



完成したデザイン

【生徒たちの願い】

アスパラ生クリーム大福の
販売にもっと貢献したい！

【生徒が見つけた問い】

中学生である自分たちにできる
ことは何だろうか？

しおり・チラシ・HP作成

有限会社渡辺精進堂に許可を取り，商品に同封するしおりや，手に取ってもらうためのチラシやHPを作成。



商品に同封するしおり



HPのトップ画面

HPのQR
コード

2022年7月21日

アスバラ
生クリーム
大福販売開始！



布野ふるさとまつりの実行委員会より販売依頼が来る。

【有限会社渡辺精進堂からの依頼】
どんどん宣伝して，沢山，売って欲しい。

広告代理店の人との交流

生徒から販売プロモーションについて「プロの人に話を聞きたい」という声上がり、広告代理店の方に講師を依頼。貰ったアドバイスを参考に販売プロモーションを修正する。



ひろしま夢ぷらざで販売

修正した販売プロモーションを行う。用意した60個が2時間で完売。



布野ふるさとまつりで販売

地域の祭りで販売プロモーション。用意した100個と、急遽、追加した20個が完売。



単元を貫く問いを生かした振り返り



プロモーション活動全体を振り返る。

プロモーション活動で布野を知ってもらえたかな？

沢山売れたけど、布野を知ってもらえていない。

【生徒が見つけた問い】
アスパラ生クリーム大福を購入した人に、
布野のことを知ってもらうにはどうすれば
よいだろうか。

この問いから
次の探究へ！

目次

1. 研究構想
2. 小中連携
3. 本年度の実践紹介
4. 成果と課題及びその対策について

今年度の検証方法

指標	達成目標	検証時期	検証方法
① 児童・生徒の探究活動への意欲	探究活動への意欲に関する質問項目について、肯定的な回答をする児童・生徒の割合が全国の平均以上	8月	全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙
	単元開始時よりも探究活動への意欲が向上したと回答する児童・生徒の割合が80%以上	単元開始時と終了時	布野中学校区独自アンケート
② 児童・生徒の資質・能力の高まり	資質・能力に関する質問項目について、肯定的な回答をする児童・生徒の割合が広島県の平均以上	6月	児童生徒学習意識等調査
	単元開始時よりも資質・能力が高まったと回答する児童・生徒の割合が80%以上	単元開始時と終了時	布野中学校区独自アンケート
③ 小中9年間を見通した単元の実践	児童・生徒の資質・能力を高めるのに適した単元となっていると回答した参観者の割合が80%以上	公開研究会	布野中学校区独自アンケート
④ ルーブリックを用いた評価結果の活用	ルーブリックを活用した評価結果をもとにして指導改善を行ったと回答する教員の割合が80%以上	単元終了時	布野中学校区独自アンケート

指標 : ① 児童・生徒の探究活動への意欲
 達成目標 : 探究活動への意欲に関する質問項目について、肯定的な回答をする児童・生徒の割合が全国の平均以上

主体性

	全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙 質問番号	肯定的回答		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
布野小学校 (全国平均)	(45) 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。	80.0% (73.1%)	72.8% (72.8%)	
布野中学校 (全国平均)	(45) 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。	76.9% (70.2%)	80.0% (72.1%)	

指標 : ② 児童・生徒の資質・能力の高まり
 達成目標 : 資質・能力に関する質問項目について、肯定的な回答をする児童・生徒の割合が広島県の平均以上

主体性

	児童生徒学習意識等調査 児童生徒質問紙 質問番号	肯定的回答		
		令和3年度	令和4年度	令和5年度
布野小学校 (県平均)	(27) 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。	81.8% (69.5%)	83.4% (72.9%)	
布野中学校 (県平均)	(27) 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。	100% (68.2%)	85.7% (72.0%)	

指標 : ② 児童・生徒の資質・能力の高まり

達成目標 : 資質・能力に関する質問項目について、肯定的な回答をする児童・生徒の割合が広島県の平均以上

コミュニケーション
能力

児童生徒学習意識等調査

肯定的回答

令和3年度

令和4年度

令和5年度

布野小学校
(県平均)

(25)授業では、友だちと話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。

72.7%
(79.5%)

83.4%
(83.4%)

布野中学校
(県平均)

(25)授業では、友だちと話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしています。

100%
(82.1%)

100%
(86.2%)

指標 : ③ 小中9年間を見通した単元の実践

達成目標 : 公開研究会で, 児童・生徒の資質・能力を高めるのに適した単元となっていると回答した参観者の割合が80%以上

設問 : 「本単元」は, 児童生徒の資質・能力を高めるのに適した単元となっていた。

参加した 教員の 校種	回答結果 (人)				合計
	とても当 てはまる	当てはまる	あまり当て はまらない	当てはまら ない	
小学校	4	4	0	0	8
中学校	15	8	0	0	23

参観者の肯定的回答の割合 : 100%

指標 : ④ ルーブリックを用いた評価結果の活用

達成目標 : ルーブリックを活用した評価結果をもとにして指導改善を行ったと回答する教員の割合が80%以上

設問 : ルーブリックを活用した評価結果をもとにして, 児童・生徒の指導改善を行っていますか。

	回答結果 (人)				合計
	そうだ	どちらかといえば, そうだ	どちらかといえば, そうではない	そうではない	
布野小中 教員	2	6	6	0	14

布野小中教員の肯定的回答の割合 : 57.14%

振り返りより分かった成果

小学 2年生

自分の意見をうまく伝えることが苦手。他者の意見を取り入れることも苦手。

生活科の単元学習後の作文(振り返り)記述より (一部抜粋)

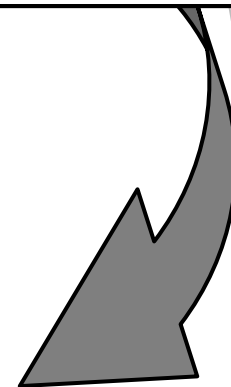
ぼくは、このべんきょうで、考える力がついたと思います。 なぜかと言うと、さいしよは弓矢をとばすゲームをいっしょうけんめい考えていたけど、ほかのグループもやっているから、ちがうあそびにしようと、〇〇さんと考えることができたからです。

**中学
2年生**

率先して前に出たり，自分から話しかけたりしようとしなない。

2学期末 総合的な学習の時間の振り返り記述より

コミュニケーション 能力	アスパラ生 クリーム大福を販売する時に <u>人とどう接していいかわからなかった。</u> <u>コミュニケーションもかたまった。</u>
自らへの自信	リモートで活動を通して <u>自分が</u> <u>お客さんに声をかけて買ってもらう</u> <u>ときはうれしかったし、自信につながった。</u>



総合質問紙調査 i-check(東京書籍)の結果より

設問：クラス全体やグループ，友だち同士で話し合いをするとき，自分の意見を積極的に発言していますか。

※小学校は年度後半でのi-checkを実施していないため，中学校のみの結果を表記している。中学1・2年生は1月，中学3年生は11月に実施。

話し手の立場

	回答結果（人）				合計
	特に望ましい回答	望ましい回答	改善を要する回答	特に改善を要する回答	
中学生	4	6	5	1	16

肯定的回答の割合：62.50%

総合質問紙調査 i-check(東京書籍)の結果より

設問：あなたは、学校生活の中で他の人が発言したり，発表したりするときに，質問をしていますか。

※小学校は年度後半でのi-checkを実施していないため，中学校のみの結果を表記している。中学1・2年生は1月，中学3年生は11月に実施。

聴き手の立場

	回答結果（人）				合計
	特に望ましい回答	望ましい回答	改善を要する回答	特に改善を要する回答	
中学生	1	8	3	4	16

肯定的回答の割合：56.25%

総合質問紙調査 i-check(東京書籍)の結果より

設問：クラスの話し合いや友だちとの間で意見が合わなかったとき、みんなが納得できるように考えて、提案していますか。

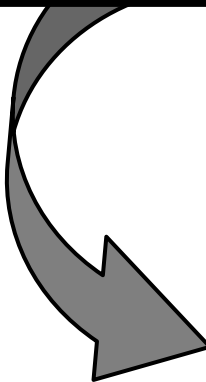
※小学校は年度後半でのi-checkを実施していないため、中学校のみの結果を表記している。中学1・2年生は1月、中学3年生は11月に実施。

**意見の
合意形成**

	回答結果（人）				合計
	特に望ましい回答	望ましい回答	改善を要する回答	特に改善を要する回答	
中学生	5	8	3	0	16

肯定的回答の割合：81.25%

	回答結果（人）				合計
	特に望ましい回答	望ましい回答	改善を要する回答	特に改善を要する回答	
話し手の立場	4	6	5	1	16
聴き手の立場	1	8	3	4	16
意見の合意形成	5	8	3	0	16



児童生徒がより充実した対話を行えるように、対話についての支援・指導の研究が必要。特に、聴き手を育てることに重点を置く。

○成果

- ・ 児童・生徒が、自分事として解決したいと思える課題を立て、対話を通して、「なぜだろう?」「どうすればできる?」「伝えたい!」という思いを抱き、主体的に学習を進めることができた。
- ・ 昨年度よりも、指導者のPBLの考え方を取り入れた単元の開発・実施についての理解が深まり、どの学年においても、児童・生徒が真剣に探究できるように工夫した単元を開発・実践した。

○課題

- ・ 児童生徒が対話を通して更に主体的に探究を進めていくために、本中学校区が共通の視点で、聴き手を育てていく。
 - 主体的な学びを深めるための対話について、指導者間での対話の目的を共有すると共に、「対話の質を高めるための児童生徒への支援・指導方法」に重点を置き研究を進める。
- ・ 児童生徒の資質・能力の適切な見取りをするために、ルーブリックの妥当性や有効性を検討し、評価の更なる充実を図る。
 - 評価について、「学区としてのルーブリックの活用方法」「評価結果をどう利用するか」に重点を置き研究を進める。